

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 栃木県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

| | |
|----------|--|
| 調査研究のテーマ | 自分も相手も大切にする児童の育成 ～互いに認め合い、高め合える人間関係づくり ・授業づくりを通して～ |
|----------|--|

○調査研究のテーマを設定した目的

本県が定める栃木県人権教育基本方針に基づき、地域の実態を踏まえ、人権尊重の精神の涵養を育む教育の充実を目的として、上記調査研究のテーマを設定した。詳細については、以下のとおりである。

那須町では、ここ数年、不登校児童生徒の割合が高い状態が続いている。人間関係をうまく築けず、学校生活に不安を抱えている児童生徒も多い。そこで町独自の教科である「NAiSU タイム」の三本柱の一つ、「人間関係プログラム」を活用し、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを計画的に行っている。それらの活動を通して、安心して自分らしさを発揮したり他者との関係をよりよく築いたりすることのできる児童生徒の育成、どのような児童生徒にとっても居場所があり、魅力ある学校づくりを目指している。

本校の児童は、とても明るく素直で、物事に責任をもって一生懸命取り組むことができる。しかし、令和5年度とちぎっ子学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、「自分には、よいところがある。」という項目で5年生が県平均を大きく下回るなど、自己肯定感が低い児童が多い。また、幼稚園や保育園からほとんど変わらないメンバーで構成される単学級のため、児童一人一人の役割や立場が固定化されてしまっている。その影響からか、児童が他者とやり取りをする際は自分の主張を一方的に伝えるだけといった様子が見られる。学校生活に関するアンケートでも、「自分の考えを伝えることができる。」という項目で、学年が上がるに従って肯定的な回答をする児童が少なくなることから、コミュニケーション力にも課題が見られる。これらのことから、自他が認められる安全・安心感のある人間関係づくりや環境づくり、協働的に学び合いながら互いに高め合える授業づくりを行うことで、自己肯定感を高め、コミュニケーション力を向上させ、生き生きと主体的に行動する児童を育成することを目指すこととする。

さらに、本町では外国人訪問客や外国人技能実習生が増加傾向にあることから、研究を通じて他国の文化や価値観の尊重等を学ぶことを通し、互いのよさや違いを認め合う態度も育成できると考え、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

- ①自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える授業づくり
- ②自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える人間関係づくり
- ③自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える環境づくり

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

那須町立高久小学校

○これまでの研究指定等の状況

○学級数

7学級（うち特別支援学級：1学級）

○児童生徒数

全児童数：93人（令和7年1月8日現在）

○URL

<https://takaku.edumap.jp>

○指定理由

那須町立高久小学校は、町内にある小学校の中で最も歴史が古く、令和6年度には学校創立150周年を迎える学校である。小規模校の特徴を生かし、保護者や地域住民と連携し、独自の教育活動を展開している。高久小学校のある那須町は、栃木県の北東部に位置し、豊かな自然環境や様々な観光施設を有し、ロイヤルリゾート地として県内外に知られており、近年は海外からの観光客が急増しているとともに、町内の外国人登録者数の割合も増加傾向にある。

現在那須町では、多様化の時代には即した教育施策等を実践するため、町独自教科NAiSUタイムに基づき、教科横断的な学習を展開している。そして、これらの教育活動の充実を図るために、「外国人」の人権や「災害に伴う人権問題」に対する正しい理解を深めることも重要である。くわえて、令和5年度とちぎっ子学習状況調査質問紙結果から、特に高久小学校の5年生に自己肯定感が低い傾向が見られることから、その対応が急務となっている。

上記のことから、本研究のテーマに迫るために本校が適切であると考え、研究校に指定したいと考えている。また、得られた研究成果は町内の他の学校のみではなく、県内に広くに発信し、人権教育の推進を図っていきたい。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

| | |
|---------------------|---|
| ①子供 | ○ |
| ②女性 | ○ |
| ③高齢者 | ○ |
| ④障害者 | ○ |
| ⑤ <u>同和問題</u> | ○ |
| ⑥ <u>アイヌの人々</u> | ○ |
| ⑦ <u>外国人</u> | ◎ |
| ⑧-1 HIV感染者等 | |
| ⑧-2 <u>ハンセン病患者等</u> | |
| ⑨刑を終えて出所した人 | |
| ⑩犯罪被害者等 | |
| ⑪インターネットによる人権侵害 | ○ |
| ⑫北朝鮮当局による拉致問題等 | |
| ⑬性的指向、性自認 | ○ |
| ⑭その他（災害にともなう人権問題） | ○ |

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

研究指定校における本調査研究を充実したものとするためには、人権教育指導者の資質の向上は不可欠である。そこで、本県教育委員会が設置する運営協議会委員等を対象として、県教委主催による参加体験型の「人権教育担当者スキルアップ研修」を開催する。

また、当該校の保護者や地域住民が人権教育に対する理解を深め、積極的に関連事業に参加する等、地域と学校とが連携した人権教育の推進を図るようにする。そのため、保護者等が人権について考えやすい内容で構成した啓発資料を県教委が作成し、学校を通じて保護者等に配布する。内容は、保護者が人権問題に関心を深めるきっかけとなるよう、保護者にとって身近な「子供の人権」や「外国人の人権問題」の解決に資する多様性の尊重等を中心に掲載するようにする。

那須町においては、以下のような内容に取り組んでいく。

① 自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える授業づくり

- ・人権に関わる様々な問題や人権一般について取り上げた授業づくり（生命（いのち）の安全教育含む）
- ・三指導の効果的展開（直接的指導「外国人、高齢者、部落差別（同和問題等）」や間接的指導の充実）
- ・未来志向の実践的展開（多様性の尊重等外国人の人権問題解決に資する内容との関連、歴史上差別されてきた人々に対する共感的理解及び明るい展望をもたせる工夫）
- ・伝え合い、学び合いを生かした多様な考えを認め合う授業づくり
- ・一人一台端末を活用した表現力の向上を図る授業づくり

- ・教科横断的展開（外国語活動や外国語科、道徳教育、総合的な学習の時間等を中心とした外国人、高齢者、障害者、被災者の人権に関わる活動の充実）
- ・人権擁護委員等による人権教育学習

② 自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える人間関係づくり

- ・基底的指導の充実
- ・人権教育の視点に立った学級経営
- ・人間関係プログラムを活用したコミュニケーションスキル向上への取組
- ・児童会主催による異学年交流の充実
- ・外国人、高齢者、障害者とのふれあい活動

③ 自分も相手も大切にし、互いに認め合い、高め合える環境づくり

- ・人権教育に重点を置いたカリキュラム・マネジメントの実施
- ・人権コーナーの充実など望ましい環境整備
- ・教職員の人権感覚向上につながる研修の実施
- ・人権週間や授業参観等の学校行事、学校・学年だよりや人権だよりなどを通じた保護者への啓発

○実施方法

①授業研究部

- 人権教育年間計画の見直し
 - ・人権教育学年別年間指導計画の見直し
 - ・高久小学校版「育てたい資質・能力等」の作成
- 人権尊重の視点に立った授業づくり
 - ・基底的指導を基にした学びに向かう集団づくりや児童が意欲的に取り組む授業づくり
 - ・「人権マーク」、「聞き方・話し方あいうえお」の活用
- 研究授業等の実践
 - ・ 外国語科、外国語活動（全学年）
 - …外国の文化に触れたり日本との違いを学んだりすることを目的としたALTとの交流会
 - ・ 国語（6学年）
 - …「目的や条件に応じて話し合おう～みんなで楽しく過ごすために～」による間接的指導
 - ・ 道徳（3学年）
 - …「アメリカから来たサラさん」による人権の窓（デジタル学習教材）の活用及び直接的指導
 - ・ 人権擁護委員による人権教室（全学年）
 - …「いじめについて考えよう」「外国人との接し方」

②環境整備部

- 教室環境づくり
 - ・多目的スペースにおける人権コーナーの充実（人権チャレンジへの取組、ワークショップで作成した成果物や人権標語の掲示）
 - ・ALTと連携した外国語コーナーの充実（外国の文化や生活の紹介）
 - ・世界の料理を楽しむ「ワールドメニュー週間」
- 言語環境づくり
 - ・話し方や聞き方の指導内容の統一

③調査部

- 教職員の人権感覚向上につながる研修等の実施
 - ・人権教育に関する講話

- ・外部講師による外国人児童の現状と対応についての講話
- ・職員会議内でのミニ研修（人権教育チェック）
- 学校行事・PTA研修会、学校・学年だより、人権だより等を通じた啓発活動
 - ・学校・学年だより、人権だより等の作成
 - ・保護者対象の研修会の実施
- アンケートの作成、実施、分析
 - ・高久小学校版アンケートの作成、実施、集計、分析
 - ・hyper-QUの活用



聞き方・話し方あいうえお



ALTとの交流



学習教材「人権の窓」



人権教室



ワールドメニュー
(フィリピン料理)



ALT作成の外国語コーナー



職員研修「外国人児童の現状と対応」

○検証・評価・改善・普及

【検証・評価方法】

○児童対象の人権に関するアンケートの結果から（事前・事後の変容 R6.10→R7.2）

| 側面 | 質問項目 | 結果 |
|-----------|---------------------------------------|---------------|
| 知識的側面 | 人権という言葉が身近に感じますか。 | 87.0% → 93.3% |
| 価値的・態度的側面 | 自分のことは好きですか。 | 82.6% → 82.0% |
| 技能的側面 | 自分の気持ちを伝えることはできていますか。 | 87.0% → 87.6% |
| | 困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしていますか。 | 93.5% → 95.5% |

<成果>

- ・子供、外国人、高齢者、災害に伴う人権侵害、性的指向・性自認等、人権問題を取り上げた直接的指導を行ってきたことが、人権という言葉が身近に感じる要因となった。
- ・様々な体験活動や異学年交流を通して、自分も相手も大切にしながら行動できる児童の育成に努めたことが行動面の変容につながった。

<課題>

- ・「自分のことが好きである」と答えた児童の割合が減少し、「自分の気持ちを伝えることができている」と答えた児童の割合もほぼ変わらなかった。
- 学習指導案に人権教育として「生かしたい児童生徒」を位置付け、児童のよさや個性を取り上げながら授業を展開することをとおして自尊感情を高める。また、職員研修の成果を踏まえて「NAiSU タイム」を実施し、「自分の思いを表現しやすい学級の雰囲気づくり」をより計画的に行い、指導に当たる。

○その他の結果や見取りから

- ・hyper-QUの結果においても、すべての学級で学校生活満足群に属する児童の割合が6割を超えており、学校全体としても、1回目の73.4%から2回目は83.2%に増加している。望ましい人間関係づくりが構築されてきていると言える。
- ・教職員相互の授業評価、外部指導者による指導・助言等から、協働的に学び合いながら互いに高め合える授業づくりができているかを見取った。ペア・グループ学習、話し合い活動等に力を入れて指導していることで、温かい雰囲気の中で意欲的に学習に取り組む姿勢、進んで自分の考えを伝えようとする姿勢が見られるようになった。

- ・研究授業及び授業研究会を実施したり、人権教育に関する基本的な内容を一から研修したりする等、教職員の研修を充実させたことにより、教師の人権意識の向上が図られ、指導力向上にも繋がった。

【普及】

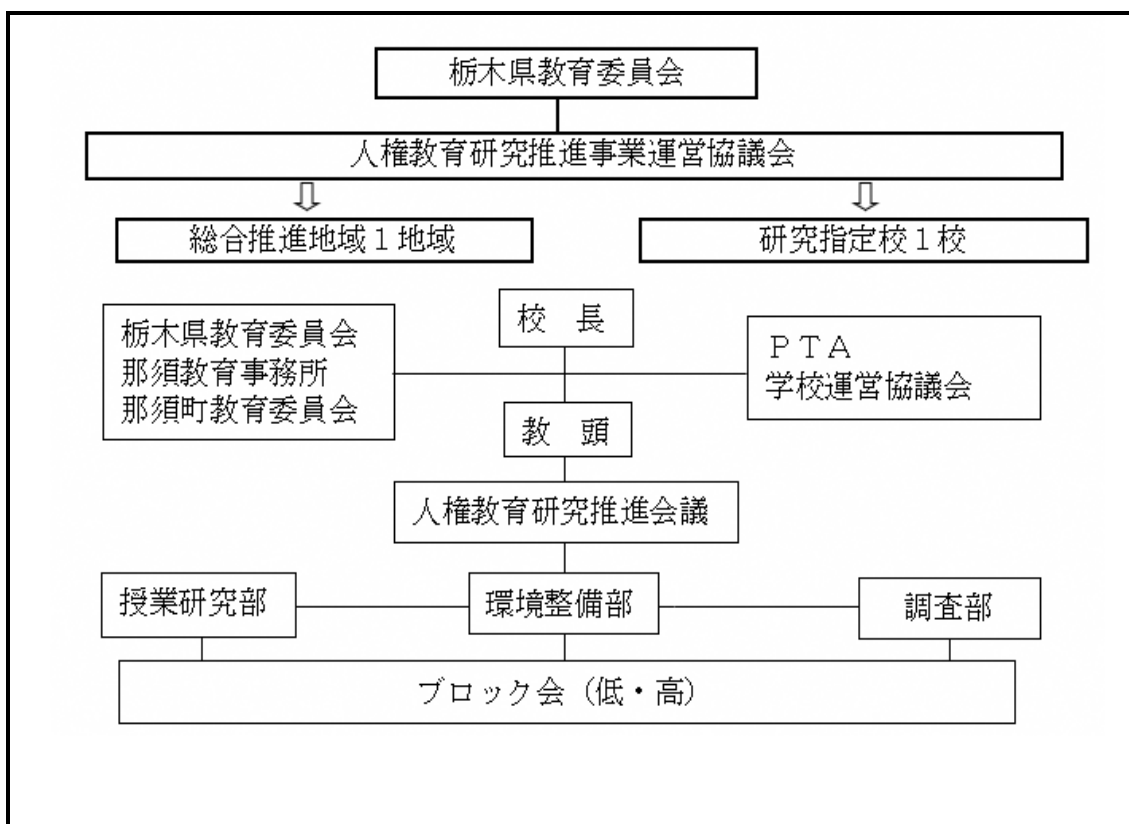
- ・6学年及び3学年の研究授業は、町内の学校や県内大学の内地留学生に向けて公開授業とした。
- ・毎月人権だよりを発行したり、人権に関する講演会を実施したりする等、保護者への啓発活動を行ってきた。
→来年度も、人権教育を推進し、保護者や地域等へ広く普及・啓発を行っていく。

5. 人権教育にかかる年間計画

| 月 | 月別人権教育目標 | 推進活動 |
|--------|---|--|
| 4 | ○心の通い合うあいさつをしよう 進んであいさつをし、みんなと仲良くしようとする ことができる。 | ・ A - 1 グランプリ (毎月) ・ 学級開き ・ 芭蕉っ子班編制 |
| 5 | ○ルールを守って仲良く活動しよう みんなと協力しながら、仲良く活動する ことができる。 | ・ 芭蕉っ子班遊び (毎月) ・ 田植え ・ さつまいも苗植え (1・2年) ・ 遠足 |
| 6 | ○友達の話をよく聞いて、自分の気持ちも伝えよう 楽しい学校生活や活動のために、友達と意見を出し合 って、折り合いをつけることができる。 | ◎人権週間(人権標語募集) ・ 教育相談 ・ 宿泊学習 ・ ふれあい集会 ・ フラワータイム |
| 7 | ○良いと思ったことを進んで実行しよう よく考え、正しく判断し、進んで行動する ことができる。 | ・ 清掃強調月間 ・ 人権作文募集 |
| 8 9 | ○みんなで励まし合い、協力し合おう めあてをもち、その達成に向けて、励まし合 い、協力し合って生活することができる。 | ・ 陸上競技記録会 ・ スポーツフェスティバル |
| 10 | ○礼儀正しい言葉づかいで話そう 相手の気持ちを考え、丁寧であたたかい言葉 を使って話すことができる。 | ・ 稲刈り ・ さつまいも堀り (1・2年) ・ 駅伝競走大会 |
| 11 | ○自分の責任をしっかりと果たそう | ・ 修学旅行 ・ なかよし会(1・2年) |

| | | |
|----|---|---|
| | <p>学校生活において一人一人の役割が大切であることを理解して、きちんと取り組むことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・持久走大会 ・フラワertime |
| 12 | <p>○友達も自分も大切にしよう</p> <p>身の回りの差別や偏見について考えたり、相手も自分も同じように大切にしようとしたりすることができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎人権週間 ・体育集会（大縄跳び） ・学習発表会 ・清掃強調月間 |
| 1 | <p>○だれとでも仲良くしよう</p> <p>相手の立場に立って物事を考え、誰に対しても温かい態度で接することができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・体育集会（大縄跳び） ・3年生クラブ見学 |
| 2 | <p>○友達の良いところを認め合おう</p> <p>友達の良いところや頑張っているところを見付け、認め合いながら生活することができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎命の週間 ・体育集会（大縄跳び） ・卒業生を送る会 |
| 3 | <p>○人やものに感謝の気持ちをもとう</p> <p>学校生活において、たくさんの人々やものにお世話になったことに気付き、感謝の気持ちをもつことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・清掃強調月間 ・卒業式準備、卒業式 ・修了式 |

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

○人権コーナーの充実

- ・人権に関する本の紹介をしたり、人権標語や人権チャレンジの取組状況が分かる掲示を行ったりすることで、人権についての関心を高めた。



○町との連携

- ・外国人への理解を深めるために、町内に勤務するALTの先生方全員に来校していただき交流会を行った。
- ・災害に伴う人権問題について考えるきっかけとするために、町役場総務課に協力していただき、避難所設営体験を行った。



○学校行事に関連させた人権教育

- ・スポーツフェスティバルの練習の中で頑張っていた友達を見付け、カードに記入し、掲示した。
- ・創立150周年式典に向けて、さらによりよい学校にしていくためにできることを考え、実践し、取組を掲示した。



○望ましい人間関係作りへの取組

- ・ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター、縦割り班遊びを定期的実施し、友達との関わり方を学ぶ機会を多く設けた。

